

「たからのまちマネージャー事業」合同ミーティング 要録

議 題	1 令和6年度の各分野の取組方針等について 2 博報堂プロダクツとの包括連携協定について 3 市のトピックスについて (1) 青果市場跡地活用プロジェクト（企画推進課） (2) 人手不足への対応について－副業の促進・生産性向上支援－（商工観光課）
日 時	令和6年5月1日（水）10時から
場 所	阿久根市役所大会議室（庁舎2階）
出席者	○たからのまちマネージャー 遠矢氏、奥水氏、山田氏、長野氏、上田氏、中垣氏 ○阿久根市 西平市長、松崎副市長、福島副市長 企画推進課5名、都市建設課2名、こども保健課2名、福祉課2名、 商工観光課2名、農林林務課3名、環境水産課5名、総務課2名、 ○関係企業 株式会社博報堂プロダクツ 板垣氏、川崎氏

記録（要録）

1 令和6年度の各分野の取組方針等について

特になし

2 博報堂プロダクツとの包括連携協定について

●遠矢氏（移住・定住）

- ・博報堂プロダクツが示したブランディングボードは、横の連携を図るための枠組みであり、必要だと考える。
- ・市民の中に地元に対して誇りを持っている人が少ない。
- ・小さな団体で自分のことしか考えていない人が多く、狭い範囲で仲間意識が強いと感じる。
- ・市役所内部でも課を超えた連携ができていないように感じる。
- ・マネージャー同士の連携を図るのであれば、市職員でも連携してほしい。
- ・まずは、博報堂プロダクツから示された方針に基づいて、動いていくことが大事。
- ・どの事業に注力するかをはっきりする必要がある。

●長野氏（山）

- ・ブランディングは中身があって、そこからにじみ出てくるものを他人が評価してこそ形成されるもの。
- ・大事なことは、それ（中身）を構築する産業や生業を含め、市民の方が幸せを感じて暮らしていけるようにすること。
- ・今回のような話し合いは、外部人材と職員だけでなく市民の方も入れて話し合った方が良い。
- ・マネージャー（外部人材）は、技術や事例を伝えるといったサポートはできるが、実際に市

を動かしていくのは地元の方々になるので、話し合いに地元の方が入っていないのはどうかと思う。

- ・話し合いは、最初から入っていた方が協力しやすいので、地元の人を巻き込みながら、一緒に盛り上げていくことが大事。
- ・阿久根市は海を推しているが、森は海の恋人であるため、森と海をつなげる事業を行い、市民の方も巻き込んで具体的な事業をしていきたいと考えている。
- ・まちづくりは、市民が主体となって進めていかないといけない。
- ・官民連携で進めていくには、中間的な団体（地域商社）があったら良いと思う。

●奥水氏（子ども・子育て）

- ・市の施策を進めていく上で核になるのは教育だと思う。
- ・今回、市が地域経済連携表を自分たちで作るという取組は、行政が主体となって進めていく姿勢が見えるため、良いと考える。
- ・阿久根市は子育て分野において、予算率は高い方であると思うが、分かってもらえていない。（周知してもらえていない）
- ・市が進める各種コンテンツに、「親子で参加できる」ということを入れてほしい。
- ・阿久根の良さ（自然、食）を子ども達を感じるには、体験してもらうことが重要。

●中垣氏（DX）

- ・DXに関しては基本的に受け身で良いと考える。
- ・DXは導入するのは難しくないが、使用されることが大事。
- ・人が移る要因は、「結婚」、「就職」、「進学」になるため、魅力的な会社ができることも重要であると考えている。

●上田氏（海）

- ・自然は良いというが、自然以外に何か売りとなる個性があるのか。
- ・阿久根市について思うことは、素材は良いが加工はどうなのか。
- ・素材を生かすのであれば、素材をブラッシュアップする必要があるが、今までの仕事のやり方を変えることは難しい。
- ・根本的な意識改革が必要。
- ・何年で変えていくのか、明確に期限を決めて事業実施すべき。
- ・危機感がないわけではないが、何をやっていいかが分からず、場当たりのことをしているように見える。

●山田氏（観光）

- ・マネージャーが現場を持っていて、プレイングマネージャーみたいになっている。
- ・博報堂プロダクツも関わっているが、マネージャーに求められる成果とは何なのか。
- ・総合戦略策定などもあると思うが、全体の進捗管理は誰が担うのか、実行段階は誰なのかなど全体の体制が見えてこないため、はっきりしてほしい。

- ・「株式会社 阿久根市」として、人口約 18,000 人を養っていくのに、どれだけ稼ぐ必要があるのか分かっていないといけない。
- ・政策面（市：予算主義）とビジネス面（民間：決算主義）が両輪となって動いていく必要がある。
- ・産業連関表は、現状を知るために必要なツールであり、現状を知った上でどのような取り組みを進めていくかが重要。
- ・阿久根市は、人口規模 100 万人とかの市町村と競うわけではないため、市の現状を知った上で取り組みを進めるべき。
- ・どの程度稼ぐ必要があるかが分かれば、マネージャーの活用方法も変わってくる。
- ・「無駄」、「ダブリ」、「漏れ」を常にチェックし、事業を整理する必要がある。

3 市のトピックスについて

(1) 青果市場跡地活用プロジェクト（企画推進課）

特になし

(2) 人手不足への対応について－副業の促進・生産性向上支援－（商工観光課）

●上田氏（海）

地元の高校において、就職説明会を行っていると思うが、起業の説明会は行わないのか。

●中垣氏（DX）

- ・若い人たちは、お金を稼ぐことに興味があり、これらの教育を行うことも必要では。
- ・起業するとお金持ちになれるということを知ってもらうことも必要。

以上